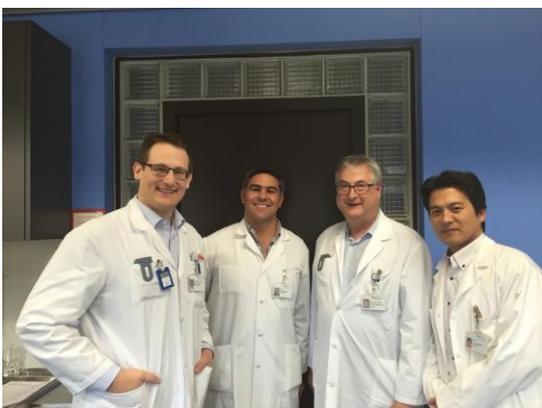


## スイス留学体験記

徳島大学 脊椎関節機能再建外科（整形外科） 後東知宏

平成27年1～3月の3ヶ月間スイスのベルン大学へ短期留学させていただきました。ベルン大学は近年、股関節分野でトピックスとなっているFAI：大腿骨寛骨臼インピンジメントを提唱した施設として有名ですが、以前よりミュラーの人工股関節、Ganz骨切り術やSurgical dislocation等でその功績は高く、現在でも股関節分野において世界を牽引している歴史ある施設です。現在ベルン大学整形外科のChairmanはKlaus Siebenrock先生で先代のGanz先生から引き継いだFAI, PAO (Periacetabular Osteotomy)等の骨切り術で高名な先生です。また、ベルン大学はAO traumaの研修施設にもなっており、近隣各国から外傷患者（主に骨盤骨折）がヘリコプターで昼夜問わず連日のように搬送されてくる外傷センターでもあります。整形外科教室には、常に私のような海外からのGuest fellowが5～6人在籍しており、私が



訪問していた期間内でもアメリカ、オーストラリア、ブルガリア、アルゼンチン、中国、シンガポール、エジプトなど様々な国からの整形外科医が在籍しておりました。日本からも継続して留学しており、日本股関節学会のtraveling fellowの留学先もベルン大学です。

ベルンはスイスの首都ですが、人口12万程度のこじんまりとしたヨーロッパの古都って感じの街です。街の規模としてはチューリッヒ、バーゼル、ジュネーブに次ぐ第4の都市です。旧市街は世界遺産にも登録されているきれいな町並みで治安も非常に良いところでした。ただし、スイスの物価は世界一高いと言われており、スーパーでおにぎり1個500～600円くらいします。海外からの訪問者にとってはかなり優しくない環境でした。私が行ったのは1～3月だったのでその寒さと日の短さは想像以上で、毎日雪の闇夜で生活している感覚でした。朝



出勤時は真っ暗の中、雪の中をとぼとぼ歩いて出勤し、病院から出てくると夕方の4時くらいでも真っ暗。また雪の中をとぼとぼ歩く…。ちょっと寂しかったです。個人的に最も苦痛だったのが食事で、どれを食べてもおいしくない。そして高い！まずくて高い！

(注：これはあくまでも私個人の感覚です。) これから留学を考えている若手の先生方へ、気候と食事は大事ですよ。とはいえ、留学中には冬のアルプス、サッカー観戦、アイスホッケー観戦、ドイツ旅行等楽しいこともたくさんありましたし、“あえて冬”っていうのが逆においしかったりもしています。

さて、肝心の研修についてですが、基本的には手術がメインです。毎日朝7時からカンファレンス、8時から手術が基本的なスケジュールです。股関節班の外来日は水曜日の1日だけです。アメリカとは違い、手洗い参加は寛容で、面倒な手続きは一切なく、簡単な事務手続きのみで可能でした。カンファレンスは全てドイツ語。英語もままならない私にとって当然ながらドイツ語でのカンファレンスは全く理解

できず、X線写真のみで雰囲気を感じとるくらいしかできません。が、X線だけでもどういう疾患にどのような治療を行ったかくらいは理解でき、思いのほか興味を持って参加できました。スタッフの先生は、カンファレンス以外では我々に対しては英語で話してくれます。スイス人の英語はとても聞きやすく **native** の英語よりかえって勉強になりました。手術は基本的に手洗い参加します。**PAO** や **Surgical dislocation** を中心にたくさんの症例を経験させていただき本当に良かったです。彼らは **hip morphology** をベースとした確固たるコンセプトを持っています。考え方そのものは、日本とは背景が違うのでそのまま我々の診療に当てはめることは難しいですが、それらのコンセプトをベースにして研究や臨床に取り組んでいる姿勢が、今の私には本当に参考になった気がします。また、彼らにはアメリカなんかには負けていないというプライドがあります。我々も見習うべき姿勢です。今回の留学における最大の収穫は、様々な国からのフェローと交友を持てたことだと思います。これからの



若い先生方には是非、積極的に海外へ出て行っていただきたいです。色んな外国人と交友を持ち、コミュニケーションをとることは、きっと貴重な経験になるだろうし、視野も広がります。今回の留学で強く思いました。

人出不足の折、快く留学を許可していただき御尽力いただいた西良教授

ならびに関係者の皆様に心より感謝申し上げます。また、医局の先生方、特に浜田大輔先生、筒井貴彦先生、殿谷一朗先生には、留守中ご迷惑をお掛けしました。御陰様で大変貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。